

私たちの活動や意見を
仲間で共有します
会費は県と日本平和委
員会の活動も支えます

土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会
事務局：土浦市神立町2664
ホームページ：//heiwatutiura.
web.fc2.com/

戦争法廃止！安倍内閣打倒！ 野党は共同して参院選に勝利しよう ＜百里初午祭で500人が決意＞



毎年2月11日に、百里平和公園で開催されている「百里初午祭」が好天に恵まれて今年も開催されました。県内各地や都内からも参加者が集まり、主催者発表で500人が交流しました。土浦平和の会からも10名以上が参加しました。

祭りは、運動の意義の再確認を示す乾杯で幕を開け、諸団体代表が安全保障をめぐる緊迫した情勢の下で、いかに今後の運動を展開するかについて、決意を述べました。

☆百里基地反対同盟☆

専守防衛が主任務の自衛隊が海外に出向き武器の引き金を引く寸前にきている。政府はマスコミを煽って、北朝鮮による挑発をことさら大きく取り上げて国民にその正当性を示そうとしている。その真意を見抜かなければならない。

☆百里基地闘争弁護団

多くの人に集まっていただき感謝。終戦のわずか数時間前にこの基地から若者8名が特攻機で飛び立った事実

がある。忘れないでほしい。

55年からこの土地の買収が始まった。土地の売買をめぐる裁判は防衛庁側から起こされた。我々はいかにしたらこの土地を売らないで済むかを考えた。そのキーワードが「自衛隊は憲法違反」「憲法違反の自衛隊に土地は売れない」という視点であった。みんなでお金を出し合い、1坪5000円で土地を所有した。こうして確保されてきたのがこの土地だ。沖縄に新たな航空団が作られるがこの百里にも1機175億円もするF35が配備される。ここは関東の一大航空基地を構成する重要な施設なのだ。200万署名を文字通り成功させ、参院選に勝利してここを憲法と平和の拠点にしていこう。

☆平和擁護県民会議☆

野党が共同して参院選に勝つことが大事。アベの野望を打ち砕かないといけない。



☆平和委員会☆

百里の闘いは戦争のための土地は売らないというのが原点。立憲主義回復が大事。アベの改憲構想、特に緊急事態条項が大きな問題。これを許せば独裁政治が始まる。自民党の得票1800万を上回る2000万署名を確実にやり遂げて自公政権を退陣させよう。

☆農民運動県連合会☆

開拓に入った人たちの土地を奪ってこの基地はできた。TPPと戦争法は一体のもの。アメリカに軍事も食糧もその主導権を渡すわけにはいかない。

☆社民党☆

くの字の誘導路は平和運動の象徴。岩国からも人間からも戦闘機が来てここで合同訓練が行われている。アベの明文改憲を許してはならない。

☆共産党☆

参院選、多くの一人区で統一候補を擁立し、2000万署名を推進し、自公政権を退陣に追い込もう。戦争法を必ず廃止させよう。

☆新社会党☆

平和運動をさらに大きくしていこう。アベの言いがかりやデタラメさをはねのけて自公の支持率が下がるような運動を作り上げていこう。

土浦平和の会が商店街で2000万署名

土浦平和の会は2月9日、憲法を守り・い

商店街で戦争法廃止を求める2000万署名を行い、1時間半で36筆を集約しました。参加者

は、新興の住宅団地より好意をもって受け止めていただけたとの感想をもちました。

☆日本山妙法寺☆

毎年この1坪運動地から3.1ビキニデーあんぎゃに向けて平和行脚を行っている。川井さんの遺志を受け継いでいく。

25歳の時、第8期勤労者通信大学を受講した。偶然だが、同期生に朝日新聞記者の本多勝一氏がいた。「学習の友」に同氏がいきさつを寄稿したのである。仮名もうひらで受講した事、科学的社会主義の理論に蒙を啓かれた事、労働者や下積みの人々への尊敬と連帯の表明等、率直でまじめな人柄を感じさせる文章だった。

リレー随想

私にとっても、勤通大の学習は「ぼんやりと見えていた世のなかなが、その世界観とともに、くっきりと構造的・立体的に把握する端緒となり知的感動」を覚えたものだった。職場が本郷にあったことで文京学習協より声がかかり、集団学習でお世話になった。当時の事務局長が、のちに「子どもと教科書全国ネット21」の主催者となる俵義文氏であった。

また、「東京学習会議とうきょう」に通い、高田求、辻岡靖仁、宮川実等々、錚錚たる講師方の講義を受けた。

勤通大や東京学習会議での学習で、「火のついた」状態になり、居住地である杉並で学習協に参加し数年間を学習運動の中で過ごした。区役所・農林省蚕糸試験場・社会保険庁・全通等、官公労が中心の組織だった（当時、

民間大企業での統一戦線派の組合は、ほぼせん滅状態だった。)が、若い仲間たちは皆明るく他職場の人たちとの交流も楽しく活動にのめり込んだ。

各種行事や学習、会議、オルグと杉並中を駆けまわっていた。苦労もあつたが、使命感・達成感もあり楽しい日々だった。そのころ酒の味も覚えた。しょっちゅう宴会があつた。飲みかつ語り、興がのれば荒木栄の「地底の歌」や革命歌などを高唱してもりあがっていた。

世間では中曽根臨調行革が吹き荒れていた。労働運動は社公合意以後、専売公社・電電公社の民営化・国鉄解体と総資本からの攻撃に総崩れとなり長い革新勢力沈滞の時期を迎えた。

学習運動も組織運営がしだいに困難な状況になり、もちこらえるだけが精一杯になっていったしら。そんな中、仕事の都合で活動から離れた。爾来30数年、老境に至っていまなおあのときの忸怩たる想いは消え去らない。

(佐久間伸一)

学習協の思い出

ふりがなは編集部